

塾生の皆様に何回かお伝えした内容を、開倫塾ニュース 2015 年 4 月号の原稿としてまとめました。皆様に 1 日も早くお読み頂きたいと希望し、本日配付させて頂きますので、是非もう一度お読みください。ご健闘をお祈りします。

林 明夫

県立高校入試直前の効果の上がる学習方法

— 「過去問」を活用して、どう学力を飛躍的に向上させるか—

開倫塾

塾長 林 明夫

Q：県立高校の入学試験まであとわずかとなりました。入試までにどのような学習をしたらよいか教えてください。

A：(林明夫：以下省略)

(1)開倫塾の中学3年生の塾生の皆様は、希望校合格を目指して文字通り「一所懸命」に、「一つの所で命を懸けるくらい熱心」にハードな長時間学習をほぼ毎日のように開倫塾でなされています。これは素晴らしいことで、高く評価されます。そこで、まずは、がんばって主体的に自分から進んで学び続ける自分自身に誇りを持ち、自分自身を誉めることです。

(2)次に、受験勉強を支えてくださっている御家族の皆様、励まし続けてくださっている学校の先生やお知り合いの方々に「ありがとうございます」と感謝の心を持つことです。感謝の心を持つことのできる人は立派な人です。

(3)最後に、3月4日の茨城県立高校入試、5日の栃木県立高校入試、10・11日の群馬県立高校入試の前日まで、各県の県立高校入試で過去に出題された問題(これを略称して「過去問」と言います)を入試直前の教材として徹底的に活用して学習することです。

Q：既に「過去問」を解いて答え合わせをしています。それだけでは不十分ですか。「過去問」はどのように活用すればよいのですか。

A：(1)決められた時間内に「過去問」を解き終え、答え合わせをしてできたかできなかったかを確認し、できなかった問題の解説を開倫塾の先生からしてもらい、また、自分自身でも「解答・解説」をよく読むことはもちろん大切です。この「答案練習」だけでも相当の力が身に着きますので、必ず行ってくださいね。

(2)これをやらなければ合格の順位が下がり、やった人に追い越されてしまいます。特に、合否スレスレのボーダーラインの人にとっては不合格の原因になってしまいます。ですから、必ず実行してくださいね。



(3)しかし、ここまでは受験生であれば誰でもやりますので、差は全くつきません。問題は
このあとです。

Q：エーッ、「過去問」を用いてこれ以上することがあるのですか。よくわかるように説明してくだ
さい。

A：(1)何十年も前のことですが、私の知り合いにある学校の入試の問題を作ったことのある先
生がいらっしゃいました。その先生が「自分の人生を懸けた受験生が何年もかけて熱心に
学び続け、挑戦する入試の問題を作る仕事ほど大事な仕事はない。そこで、入試の問題を
作る先生方は学校の教科書を作るのと同じくらい、否(いな)、それ以上の熱心さで、受験
生が取り組むに値するよい問題になるように1年近くの長い期間をかけて入試問題を作る
のだ」と教えてくださいました。それをお聞きして感動した覚えがあります。

(2)この先生のお話を通して、私が受験を前にした皆様にお伝えしたいのは、入試の問題をお作
りになっておられる「作問者」の先生方の熱い思いです。学校の教科書を作るのと同じくらい、
否、それ以上の熱心さで、受験生の皆様のためにより問題を作ってくださいているのですから、
受験生の皆様は「過去問」を一度解いたあとに、各教科の「過去問」を学校の教科書と同じよ
うに学習して得点増に結びつけるべきです。

(3)普通、高校入試の「過去問」は一度解いて答え合わせをしたらおしまいですが、それで
おしまいにしないで、学校の教科書を学習するのと同じくらい
の熱心さで「過去問を教材として学習する」ことが肝要です。



Q：具体的にはどうすればよいのですか。

A：(1)一度解いた「過去問」を必ずもう一回ノートに書き直すこと、できれば4～5回書き直す
ことです。

*ですから、「過去問集」の中に答えを直接書き込まないようにしてください。答えはすべ
てノートに書くこと。これが大事です。

(2)「過去問」の「問題本文・設問・選択肢・解答・解説」のすべてを「声に出して読む」
こと。スラスラとよく読めるようになるまで「音読練習」をすることです。

(3)「音読練習」をしていて意味のよくわからない語句があったら、辞書や学校の教科書、
参考書などを用いて調べる。調べた内容はノートに書き写し、その場で覚えてしまう
ことです。

(4)よく書けなそうな語句は、楷書で正確に書けるようになるまで「書き取り練習」をする
ことです。

(5) 計算や問題を見た瞬間に条件反射で正解が出るまで「計算・問題練習」を繰り返すことです。(「・」は「ポチ」と読んでくださいね)

Q : 「過去問」をここまでやるのですか。

A : (1) その通りです。先ほどお話したように、4～5年分の過去問を解いて答え合わせをすることは受験生なら誰でも行っていますので、差は全くつきません。

(2) ただし、「過去問」を学校の教科書を学ぶ熱心さで学習して「理解」と「定着」を図ろうとしている人は世の中にあまりいませんので、他の受験生にグッと差をつけることができます。

(3) ですから、開倫塾の塾生の皆様は、「過去問」をここまで徹底的にやることを必ず実行してくださいね。



Q : 最後に一言どうぞ。

A : (1) 「学力」とは何か。「学力」とは「主体的に学ぶ力」だと考えます。「学力」とは自ら進んで学ぶ力です。

(2) では、どのように学んだらよいのか。それには「効果の上がる学習方法」を身に着けることが大切です。

(3) 塾生の皆様は、これからの人生で何十回、何百回も試験を受けなければなりませんので、自分なりの「試験に向けての学習方法」も身に着けておくと将来きっと役に立ちますよ。

(4) 今回お伝えした「過去問を活用した学習方法」も、皆様の得点を確実に、また、大幅に押し上げます。

(5) 開倫塾の教育目標は、自己学習能力の育成です。開倫塾に在籍している間に「効果の上がる学習方法」を少しでも多く身に着けてください。

— 2015年2月16日 —
(宇都宮大学大学院工学研究科 客員教授)

